

栄養プロファイルフィージビリティスタディの検討

研究分担者 多田 由紀（東京農業大学応用生物科学部栄養科学科）

研究要旨

本研究班において日本版栄養プロファイルモデルのフィージビリティスタディを実施するための基礎資料を得ることを目的に、諸外国におけるフィージビリティスタディの実施状況および我が国の機能性表示食品制度等におけるフォーカス・グループ・インタビューの実施方法などについて調査し、検討した。諸外国における Front-of-Pack Labelling model では、検証のための研究デザインを組んで参加者を募集する形式で研究が行われていたものの、Nutrition & Health claim model では、既存の食事調査データを用いてスコアを算出したり、市販食品の栄養素等含有量のスコアを算出して評価したりするなど、参加者募集を伴わないデザインの研究が多くみられた。我が国における機能性表示食品制度や健康食品に関する消費者の認知等においても、フォーカス・グループ・インタビューならびに大規模な定量的検証が行われていた。

A．研究目的

諸外国では栄養表示制度に加えて、食品の栄養価を総合的に判断することができるよう、その栄養価に応じて食品をランク付けする「栄養プロファイル（以下、NP モデル）」が栄養政策で活用されている。本研究班では、北欧、英国、EU、オーストラリア・ニュージーランド（FSANZ）、東南アジア、チリ、タイ、WHO などにおいて既に策定された資料をもとに、「日本版 NP モデル」策定に向けて調査を進めている。

一方、NP モデルをわが国の栄養政策に活用するためには、モデルの有用性や活用の在り方について検討するため、一般消費者を対象としたフィージビリティスタディを行う必要がある。そこで、諸外国における NP に関するフィージビリティスタディの実施状況および我が国の機能性表示食品制度

等におけるフォーカス・グループ・インタビューの実施例などについて調査し、本研究班において NP モデルのフィージビリティスタディを実施するための基礎資料を得ることを目的とした。

B．方法

第 41 回 Codex Committee on Nutrition and Foods for Special Dietary Uses（CCNFSD）の NP モデル策定のための一般ガイドラインで整理された既存の NP モデル（97 件）から、NP モデルの開発主体が政府系組織であるモデルから（51 件）、NP モデルの開発/活用の主な目的が「ヘルスクレーム」「食品の包装前面における表示（Front-of-Pack Labelling）」「広告規制」以外のモ

デル、情報が不足していたモデルなどを除き、計 22 件のモデルが抽出された（詳細は横山および吉崎の分担研究報告書に記載）。さらに、本研究班では NP モデルの対象グループを栄養素等表示基準と同様に 18 歳以上とする予定であることから、子供の広告規制を目的としたモデルを除く 16 モデル（Healthier Choice Symbol、シンガポール；Health Star Rating (HSR)、オーストラリア；Front-of-Package Nutrition Labelling、カナダ；Black Octogonal-Sign/ Sellos de advertencia “ALTO EN”、チリ；Nutri Score、フランス；Food Safety and Standards Regulations: Labelling and Display、インド；Israeli Warning Label、イスラエル；Healthier Choice Logo、マレーシア；Keyhole、スウェーデン・デンマーク、ノルウェー；Healthier Choice Logo、タイ；Traffic light labelling、イギリス；Nutrient Profiling Scoring Criterion (NPSC)、オーストラリア、ニュージーランド；AFSSA model / SAIN and LIM scores、フランス；Health Claims (Nutrient specific diet-related health claims)、シンガポール；Requirements for foods carrying a health claim、アメリカ；Definition of a ‘healthy’ food、アメリカ）の活用に関する先行研究を調査した。

抽出された諸外国における NP モデルの

フィージビリティスタディの検索には、米国国立医学図書館（National Library of Medicine, NLM）が提供する文献データベース（PubMed）を使用した。キーワードとしてモデル名および国名をまずは入力し、ヒット件数に応じて validation study、Feasibility study、Consumer、Knowledge などのキーワードを追加し、一つのモデルで複数の介入研究が行われていた場合、本研究班で参考にできる要素の多い研究を優先的に選択した。抽出された論文のうち、人を対象とした研究（既存の食事調査データの再解析を除く）について、方法、対象者の選定基準・人数、抽出食品、評価指標/質問項目、主な結果についてまとめた。

我が国においては、政府系組織が開発主体となった NP モデルがこれまでに提案されていないため、消費者庁による機能性表示食品制度の活用に関する調査報告書(1) および東京都福祉保健局による健康食品の摂取に係る調査結果報告書(2)について前例を挙げた。

C . 結果

表 1 に人を対象とした研究（既存の食事調査データの再解析を除く）が関連論文としてヒットした Healthier Choice Symbol（シンガポール）(3)、Health Star Rating（オーストラリア）(4, 5)；Front-of-Package Nutrition Labelling（カナダ）

(6)、Black Octogonal-Sign/ Sellos de advertencia “ALTO EN”(チリ)(7, 8)、Nutri Score(フランス)(9, 10)、Keyhole (スウェーデン・デンマーク, ノルウェー)(11)、Healthier Choice Logo(タイ)(12)、Traffic light labelling(イギリス)(13)の概要を示した。人を対象とした原著論文が報告されていたのは、主に Front-of-Pack Labelling model であり、Nutrition & Health claim model では、Nutrient Profiling Scoring Criterion (オーストラリア, ニュージーランド)(14)、AFSSA model / SAIN and LIM scores (フランス)(15)のように、既存の食事調査データを用いてスコアを算出したり、市販食品の栄養素等含有量のスコアを算出して評価したりするなど、参加者募集を伴わないデザインの研究が多くみられた。

なお、Front-of-Pack Labelling model のうち、Food Safety and Standards Regulations: Labelling and Display(インド)、Israeli Warning Label(イスラエル)、Healthier Choice Logo(マレーシア)については、PubMed におけるキーワード検索ではヒットしなかった。

我が国における機能性表示食品制度に対する消費者意向等に関する調査(1)では、大規模インターネット調査の調査票案を作成するための基礎資料を得ることを目的に、グループインタビュー調査を実施した。インタビューでは、「健康食品」の摂取状況、

「健康食品」に関する情報源や購入の際の判断基準、「健康食品」に期待する効果や実感した効果、過剰摂取や医薬品との飲み合わせ等への不安、家族の「健康食品」の摂取状況、「健康食品」の区分認識と説明後の変化、「健康食品」の区分があることに対する評価、機能性表示食品に対する意識、機能性表示食品の表示に対する評価と活用意向、機能性の根拠に対する認識、安全性や機能性の根拠に対する認識、機能性表示食品の一般向け公開情報等商品選択のための情報について等を把握した。また事後アンケートとして、グループインタビューへの参加前後における行動変容などを把握している。さらに、グループインタビュー調査において得られた消費者意向を踏まえ、3,091人を対象としたインターネット調査により定量的な検証を行っていた。

東京都福祉保健局による調査では、インターネット調査によって6000人を対象に予備調査(スクリーニング)を行い、さらに健康食品の摂取頻度が高い1200人を抽出した本調査を行っている。また、フォーカス・グループ・インタビューを同時期に行い、「健康食品」の利用状況、利用しての経験、今後の利用意向、利用する上で必要な情報、信頼できる情報などを把握していた。

D. 考察

諸外国における NP モデルのフィージビリティスタディに関する研究を調べた結果、

Front-of-Pack Labelling model では、検証のための研究デザインを組んで参加者を募集する形式で行われていた研究が多かったものの、Nutrition & Health claim model では、既存の食事調査データを用いてスコアを算出したり、市販食品の栄養素等含有量のスコアを算出して評価したりするなど、参加者募集を伴わないデザインの研究が多くみられた。我が国における機能性表示食品制度や健康食品に関する消費者の認知等に関する調査においては、フォーカス・グループ・インタビューならびに大規模ないインターネット調査による定量的検証が行われていた。

以上の先行例を踏まえ、本研究班におけるフィージビリティスタディの実施にあたっては、日本版 NP モデルの活用資料を作成し、予備調査としてフォーカス・グループ・インタビューを行う予定である。結果から課題を明確化するとともに必要な調査項目を抽出し、本調査では、通常の加工食品や強調表示がなされた食品と比較して、栄養プロファイルに基づく表示により食品選択が変化するかを評価する予定である。また、機能性食品及び栄養強調表示がなされた既存の食品について、策定した栄養プロファイルに対応する食品の割合を調査する。しかし、先行研究においては、FOP がなされた食品の方が、栄養成分表示のみよりも消費者から理解されやすいという調査結果が複数報告されていることから、本研究班におい

て活用資料をどのように作成していくか、今後さらなる検討が必要である。

E . 結論

諸外国における NP モデルのうち、Front-of-Pack Labelling model と Nutrition & Health claim model では、活用に関する研究の実施状況が異なっていた。本研究班で作成する日本版 NP モデルの活用資料をどのような内容で作成し、どのようなデザインのフィージビリティスタディで検証していくかは、今後さらなる検討が必要である。

E . 参考文献

1. 消費者庁. 機能性表示食品制度に対する消費者意向等に関する調査事業報告書 平成 28 年 2 月
2. 東京都福祉保健局. 都民を対象とした「健康食品」の摂取に係る調査結果報告書. 平成 28 年 2 月
3. McCrickerd K, Tay PPS, Tang CS, Forde CG. Using Sensory Cues to Optimise the Satiety Value of a Reduced-Calorie Product Labelled 'Healthier Choice'. *Nutrients*. 2019;12(1).
4. Talati Z, Pettigrew S, Kelly B, Ball K, Dixon H, Shilton T. Consumers' responses to front-of-pack labels that vary by interpretive content. *Appetite*. 2016;101:205-13.
5. Ni Mhurchu C, Volkova E, Jiang Y, Eyles H, Michie J, Neal B, et al. Effects of interpretive nutrition labels on consumer food purchases: the Starlight randomized controlled trial. *Am J Clin Nutr*.

2017;105(3):695-704.

6. Goodman S, Vanderlee L, Acton R, Mahamad S, Hammond D. The Impact of Front-of-Package Label Design on Consumer Understanding of Nutrient Amounts. *Nutrients*. 2018;10(11).

7. Taillie LS, Reyes M, Colchero MA, Popkin B, Corvalan C. An evaluation of Chile's Law of Food Labeling and Advertising on sugar-sweetened beverage purchases from 2015 to 2017: A before-and-after study. *PLoS Med*. 2020;17(2):e1003015.

8. Correa T, Fierro C, Reyes M, Dillman Carpentier FR, Taillie LS, Corvalan C. "Responses to the Chilean law of food labeling and advertising: exploring knowledge, perceptions and behaviors of mothers of young children". *Int J Behav Nutr Phys Act*. 2019;16(1):21.

9. Simplified nutrition labelling. Implementation of the Law on Modernising our Health System. (article 14-II). Report of the steering committee for assessment under actual buying conditions. 21 April 2017.

10. Julia C, Blanchet O, Mejean C, Peneau S, Ducrot P, Alles B, et al. Impact of the front-of-pack 5-colour nutrition label (5-CNL) on the nutritional quality of purchases: an experimental study. *Int J Behav Nutr Phys Act*. 2016;13(1):101.

11. Larsson I, Lissner L. The 'Green Keyhole' nutritional campaign in Sweden: do women with more knowledge have better dietary practices? *Eur J Clin Nutr*. 1996;50(5):323-8.

12. Pongutta S, Tantayapirak P, Paopeng C. Packaged food consumption and understanding of front-of-pack labels in urban Thailand. *Public Health*. 2019;172:8-14.

13. Sonnenberg L, Gelsomin E, Levy DE, Riis J, Barraclough S, Thorndike AN. A traffic light food labeling intervention increases consumer awareness of health and healthy choices at the point-of-purchase. *Prev Med*. 2013;57(4):253-7.

14. Franco-Arellano B, Labonte ME, Bernstein JT, L'Abbe MR. Examining the Nutritional Quality of Canadian Packaged Foods and Beverages with and without Nutrition Claims. *Nutrients*. 2018;10(7).

15. Maillot M, Sondey J, Braesco V, Darmon N. The simplified nutrient profiling system (SENS) adequately ranks foods in relation to the overall nutritional quality of diets: a validation study. *Eur J Clin Nutr*. 2018;72(4):593-602.

F . 健康危機情報

なし

G . 研究発表

1 . 論文発表

なし

2 . 学会発表

なし

H . 知的財産権の出願・登録状況

なし

Table 1. 諸外国における栄養プロファイルの活用に関する先行研究

モデル名	国名	発表年	デザイン・方法	対象者の選定	対象者人数	抽出食品	評価指標 / 質問項目	主な結果	文献番号
Front-of-Pack Labelling model									
Healthier Choice Symbol (HCS)	シンガポール	1998	ランダム化比較試験 2日間の実験日の朝に高エネルギー (211 kcal) あるいは低エネルギー (98 kcal) の豆乳を摂取。低エネルギー豆乳は、ラベル (Healthier Choice Symbol, HCS)・感覚・品質の組み合わせが異なる4種類のいずれかを摂取した: (1) 感覚一致/ラベルなし、(2) 感覚一致/ラベル付き、(3) 感覚低下 (甘くクリーミーではない)/ラベル付き、(4) 感覚強化 (甘くてクリーミー)/ラベル付き	21~50歳の男女で、BMI18.5~30.0 kg / m ² 、アレルギーや試験食への嫌悪感がない者。 除外基準: 積極的ダイエットしている、週に7本以上のタバコを吸っている、過去12か月で5 kgを超える体重増加/減少がある、食欲や代謝に影響を与える薬を服用している	112: 1群28人	豆乳飲料	官能評価、食後15分ごとの空腹感、昼食摂取量	エネルギー摂取量は、どのように提示されたかに関係なく、低エネルギー飲料を提供した日に一貫して低かった。ただし、HCSラベルは、ラベルなしバージョンの同じ食品と比較して、昼食前の空腹感を高め、豆乳の濃厚さと甘さの感覚を減少させた。製品の感覚強度を増加させると、好み、感覚の質、食欲が維持された。	3
Health Star Rating (HSR)	オーストラリア	2014	質的研究 (フォーカスグループインタビュー) Health Star Rating (HSR)とMultiple Traffic Light system (MTLs)、Daily Intake Guide (栄養素等表示基準値に占める割合、DIG) の比較を含むインタビューを行った。	性別および年齢 (10-13、14-17、18-25、26-45、46歳以上) で階層化し、各グループ10人を目標にパース市内で電話、オンライン広告、紹介、チラシなどにより募集した。	85: 成人50人、10-17歳35人	HSRはヨーグルトとチキンナゲット、MTLsはチーズとミューズリーバー、DIGはシリアルとポテトチップスに表示した。	食品の嗜好、買い物習慣、栄養関連の情報源について質問した後、DIG、MTLs、HSRを一つずつ示した。最も親しみのあるものからディスカッションし、後から馴染みの少ないラベルを示すことで、理解しやすさなどを比較し、最後にすべてを同時に見せて好みを議論した。	DIGは過去10年にわたり加工食品に表示されていたにもかかわらず、いずれのグループにおいても理解が不十分で、健康的な食品選択にあまり利用されていなかった。食品が健康的かどうかを総合的に判断できるといってHSRが最も好まれたが、スナックやデザートについて使用しないという意見が多かった。	4
Health Star Rating (HSR)	オーストラリア	2014	ランダム化比較試験 参加者をtraffic light labels (TLLs)、Health Star Rating labels (HSRs)、対照 [nutrition information panel (NIP)] に割付。パッケージされた食品のバーコードをスキャンし、割り当てられたラベルをスマートフォンの画面で受け取った。	スマートフォンを所有し、18歳以上で、週に1回以上家庭用の買い物をし、5週間の介入期間を通して参加できる者	1357: TLL 459人、HSR 443人、NIP 455人	栄養表示の影響を最も受けそうな食品カテゴリー (パン、朝食用シリアル、シリアルバー、レディミール、スープ、牛乳、ヨーグルト、ジュース)	・4週間の介入期間において購入されたすべてのパッケージ化された食品のNPSCスコア (全体平均、3分類 (飲料、1-3以外の食品、チーズ、油脂類) および栄養表示の影響を最も受けそうな食品群 ・購入した食品100gあたりのエネルギー、飽和脂肪、全糖、ナトリウム、繊維、タンパク質の平均含有量、Vポイント (果物、野菜、ナッツ、豆類)。 ・購入した食品の表示プロファイル (平均HSR)、毎週の平均食物支出; ・ラベルの有用性 (栄養表示はどの程度役に立ちましたか)、研究用ラベルにより、どのくらいの頻度で別の食品を購入しましたか)、理解 (ラベルはどの程度理解しやすかったですか)、研究用アプリケーション使用後の現在の栄養知識 (0から10までのスケールで測定) ・アプリケーションに記録された、割り当てられたラベルシステムの使用状況	栄養表示は食品の購入に大きな影響を与えなかった。ラベルを活用した参加者に限定すると、ラベルは有用で理解しやすく、頻繁なNIPユーザーと比較して、TLLとHSRの頻繁なユーザーは健康的な食品を購入した。	5
Front-of-Package Nutrition Labelling	カナダ	2019	ランダム化比較試験 参加者は、画面に表示されたシリアルボックスの画像 (カナダ保健省によって提案された砂糖と飽和脂肪のFOPラベル) を4秒間見た。(0) 対照 (FOPラベルなし)、(1) 赤丸、(2) 赤い停止標識、(3) 虫眼鏡、(4) 虫眼鏡+感嘆符、(5) 「注意」の三角形+感嘆符。	オーストラリア、カナダ、イギリス、アメリカでの国際食糧政策研究の一環として実施。Nielsen Consumer Insights Global Panelおよびパートナーパネルを通じて採用された18-64歳の男女	11,317	シリアル (飽和脂肪と砂糖が「High in」に分類される食品)	・画面から画像が消えた後、飽和脂肪と砂糖に関する質問をした。「製品に含まれる (飽和脂肪/糖) の量は?」 (「低」、「中」、「高」、「わからない」、「拒否」); ・実験後、5つのFOPデザインすべてを見せ、ラベルの印象を質問した。「製品が飽和脂肪と糖分が「多い」ことを消費者に知らせるのに最適な記号はどれですか」;	停止標識、三角形+感嘆符、赤い丸、または虫眼鏡+感嘆符記号に「high in」のテキストを組み込んだ場合、製品が飽和脂肪または糖分が「高い」と正しく認識する可能性が高かった。全体的に、正しい説明、赤い色、直感的な「警告」記号 (たとえば、一時停止標識、感嘆符、「警告」の三角形) が付いたFOPラベルは、限られた時間で公衆衛生上の懸念の高レベルの栄養素を伝えるのにより効果的であった。	6
Black Octogonal-Sign / Sellos de advertancia "ALTO EN"	チリ	2012	追跡調査 2016年にチリの食品表示および広告の法令が施行される前後 (2015年・2017年) にカンタワード/パネルチリ調査に参加している、都市部に住む世帯からパッケージ飲料購入に関する月次の長期データを収集	除外基準: 世帯員が広告代理店、市場調査会社、メディア会社で働いているか、調査した製品を販売する会社の経営者	2,383	飲料	"high-in" (high in sugar, saturated fat, sodium, calories) に分類される飲料の購入量	"high-in" 飲料の購入量は、規制が実施された後、1日あたり1人あたり22.8 mL (23.7%) 減少した。高学歴世帯も低学歴世帯も、同様に減少したが、高学歴家庭のほうが大幅に減少した。	7
Black Octogonal-Sign / Sellos de advertancia "ALTO EN"	チリ	2012	質的研究 (フォーカスグループインタビュー) 法令施行翌年に子供の母親を社会経済的地位と子供の年齢によって層別割付した9つ (7~10人) のグループインタビューを実施 (平均90分)。	求人会社を通じて、地域や母親の社会経済的情報にアクセスし、知人同士を抽出しないように、子供 (2-14歳) の母親を抽出した。マーケティングおよび食品関連産業で働いていた者は調査から除外した。	84		30項目の質問によって、通常の食事の変化、購入意思決定のプロセス、FOPラベル、学校の規制とマーケティング戦略に関する意見と行動を把握した。また、食品業界がラベルのメッセージを打ち消すために使用していた (つか) のマーケティング手法について質問した。	法令施行から1年後、規制は多くの母親に認知されていた。警告ラベルの利用の程度は参加者間で異なっていたが、子供たちへの規制に対しては肯定的であった。多くの母親は、健康的な食生活への重要な変化を認識しており、それが食生活の社会的規範の変化につながる可能性があると述べた。	8

(continued)

(continued)

モデル名	国名	発表年	デザイン・方法	対象者の選定	対象者人数	抽出食品	評価指標 / 質問項目	主な結果	文献番号
Nutri Score	フランス	2013	クラスターランダム化比較試験 4つのロゴ(Nutri-Score, SENS, Nutri-Couleurs, Nutri-Repère)を比較。4地域(50%が低所得者)60店舗で少なくとも10週間実施(各システムに10店舗、対照として20店舗)			ラベル付け可能な6領域:生鮮食品、大量生産の焼き菓子、大量生産パン・ペストリー、缶詰の調理済み食品	購入した商品の平均スコアの変化、消費者の栄養情報システムの認識と理解(3つの製品を正しくランク付けできるか)、消費者の情報ニーズ(最も目立つシステムはどれか)	4つのロゴのうち3つ(Nutri-Score, Nutri-Couleurs, SENS)は、購買習慣に肯定的な影響を与えた。一部の消費者は緑色をエコ製品を意味すると誤解していた。	9
Nutri Score	フランス	2013	ランダム化比較試験 仮想店舗で3パターンの状況を作り購入内容と比較 1)対照:製品にFOPがない状態、2)介入No.1:消費者に追加説明なしで、すべての食品にFOPに5-CNLを導入、3)介入No.2:消費者に説明*を加えてすべての食品に5-CNL FOP栄養表示を導入。 *FOPを使用して製品を比較する方法、色の属性、製品/ブランドに関する他の情報に関する媒体を配布した。	男女別に各年代(18-24/25-29/30-34/35-39/40-44/45-49/50-54/55-59/60-64/≥65才以上)から割り当て抽出法にてサンプリング。 除外基準:マーケティング、食品業界、小売に関する職業に従事する者、家庭で食料品の買い物を担当していない者、FOPラベルの導入に選択した食品カテゴリの購入が年1回未満の者	901: 対照300人、ラベルのみ301人、ラベル+説明300人	栄養組成と長期保存性から主要な3つの食品カテゴリを決定:朝食用シリアル、スイートビスケット、スナック(プレッツェル、クラッカー、クリスプを含む)、朝食用シリアルは、「グリーン」(N=3)から「ピンク」(N=29)まで、82食品。ビスケットは主に「赤」(N=107)で130食品、スナック類は「オレンジ」(N=11)から「赤」(N=26)まで84食品	主要項目:ショッピングカート内の食品を3カテゴリ別に100gあたりの平均FSAスコアを算出(低いほど健康的) 副次項目: ・選択された食品の栄養素等含有量 ・FOPの認知:欄にFOP栄養ラベルが表示されたことを覚えていますか?、このFOP栄養ラベルは理解しやすいと思いますか?(非常に簡単/かなり簡単/あまり簡単ではない/まった(理解しにくい) ・FOPの理解:ラベル表示された2つの製品を2秒間見て、健康に良い方を回答(正解/不正解/わからない)	ラベル+説明群では、スイートビスケットのカテゴリで、購入した商品の平均FSAスコアが有意に低かった(良かった)。	10
Keyhole	スウェーデン デンマーク ノルウェー	1989	観察研究 追跡研究に参加している女性を無作為に抽出し、Keyholeに関する知識を自由回答形式でインタビューし、24時間思い出し法による食事調査から算出した脂肪と食物繊維摂取量との関連を分析した。	無作為抽出	616		Keyholeの知識、脂肪および食物繊維摂取量	62%の女性がグリーンキーホールの意味を十分に理解していた。知識の有無による総脂肪摂取量または総繊維摂取量に有意差はなかった。しかし、4200 kJ(1000 kcal)あたりの多価不飽和脂肪酸と飽和脂肪酸の比率および繊維摂取量は、知識がある女性の方が高かった。	11
Healthier Choice Logo	タイ	2016	観察研究 全国の主要な23のスーパーマーケットで個人にインタビューし、FoPラベルの違いが健康的な食品選択に及ぼす影響を比較した。 現在のガイドラインの1日の量(GDA)、GDA+緑色の色分けされたGDA [GGDA]、テキスト付きのGDAラベル[GDAT]、緑色の色分けされたGDAテキスト付きラベル [GGDAT])		1364			参加者の11%だけが毎回GDAラベルを読むと回答した。読まなかった主な理由は、理解できないか魅力的でなかったことだった。合計で、65%、62%、61%、39%がそれぞれGDAT、GGDAT、GGDA、GDAラベルを読み取ることができた。GGDA、GDAT、およびGGDATラベルを読んだ場合、通常のGDAラベルを読んだ場合と比較して、より健康的な食品を選択した。	12
Traffic light labelling	イギリス	2006	前後比較試験 病院食堂のメニューに、赤(不健康)、黄色(あまり健康ではない)のラベルを7週間表示する前後に調査を行った。購入商品の赤、黄、緑の割合をレジデータとリンクさせた。	食堂利用者	前(N=166)、 後(N=223)、平均 回答率60%		・「本日購入する前に、食堂のメニューまたは食品ラベルの栄養情報を見ましたか?」。 ・「食品および飲料を選択する上で最も重要な2つの要因は何ですか?」 1)味、2)価格、3)健康/栄養、4)利便性、5)その他 ・「食品/飲み物を選ぶときに栄養情報を参考にしますか?」「健康に良い食品を選びますか?」(いつも、めったにない、まったくないのいずれかで回答) ・「今日、カフェテリアの赤、黄、緑のラベルに気づきましたか?」「ラベルは今日の購入に影響を与えましたか?」	ベースラインより多くの回答者が購入時の重要な要素として健康/栄養を選択し、栄養情報を見たとき報告した。介入中にラベルに気づいたと回答した者は、ラベルに気付かなかった回答者よりも健康的な商品を購入した。	13